

差別のない明るいまちを

いじめと人権

子どもは大人の鏡

—その1—

人権啓発
コーナー
No.48



市人権推進課（教育庁舎1階）

TEL 32・2122/FAX 33・3525

いじめによる子どもの自殺が続き、心が痛みます。
今月号から「いじめと人権」について、徳島新聞の「日曜コラム」欄に標題の記事が載せられていましたので、紹介していきます。みなさん、ともに考えてみませんか。

物語の主人公は小学校の6年生。同じクラスの4人組にいじめられている同級生をかわいそうだと思いながらも、見てみぬふりをしている。口を出すと自分がいじめられるから…。

いじめる、いじめられる、しらんぷりをする。程度の差はある、誰もが似たような体験をしているはず。久しぶりにこの絵本を開いた筆者も、遠い昔のぼろ苦い記憶がよみがえった。

大津市で中学2年の男子生徒が自殺するなど、いじめの悲しいニュースが後を絶たない。

「けなされて育つと、子どもは、人をけなすようになる」とげとげした家庭で育つと、子どもは、乱暴になる」（愛してあげれば、子どもは、人を愛することを学ぶ）そんな言葉が続く。

—次号につづく—

参考・引用文献
2012年8月5日
「徳島新聞」 提供

美波町の絵本作家、梅田俊作さん・桂子さん夫妻の絵本「しらんぷり」（ボプラ社）が出版されたのは15年前。

当時も、いじめが大きな問題になっていた。「しらんぷり」は全国で反響を呼び、1997年度の日本絵本大賞を受けた。

次第にひどくなるいじめ、しらんぷりをする主人公の心の葛藤、反応しない先生や父母の鈍さがとてもリアルだ。俊作さんの身近にあつた実例がベースになつているからだろう。

家庭教育に生涯をささげた米国の教育家、ドロシー・ロー・ノルトさんに、「子は親の鏡」という有名な詩がある。

おじさんは、しらんぷりができない大人なのだ。

のだと思う。
「いじめの問題の根っこは大人にある」と俊作さんは言う。「大人がしらんぷりをするから、こどももしらんぷりをするようになる」と。

絵本には、いじめられている同級生が心を開く大人として、「屋台のおじさん」が登場する。おじさんが主人公に言う。「人がこまつと人の見たら、しらんぷりはだけへんわな。／気持ちがスッキリせんやろ」屋台のおじさんは、しらんぷりができるからだろう。

人権教育学級、人権問題講演会を開催します。入場料無料、どなたでも参加できますので是非ご来場ください。

※当日は要約筆記を用意しています。

※授乳・育児などに利用できる部屋を準備しております。

◆第5回 人権教育学級

◆発達障がいについての理解と支援
～希望を共有できる社会をめざして～

【講師】岩脇小学校教諭 西野貴子さん

【日時】11月5日(月) 午後2時～午後4時

【場所】市保健センター2階（多目的室）
(午後1時30分より受付開始)



人権推進課からのお知らせ

【お問い合わせ先】市人権推進課（教育庁舎1階）
TEL 32・2122/FAX 33・3525